



第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／蘭 三恵 佐賀市教育委員会社会教育部社会教育課 主査
渋谷 秀文 島根県益田市立吉田小学校 教諭

分科会の進め方

13:30~13:35

1 桜島丸ごとエコミュージアム構想とエコツーリズムへの結合

13:35~14:05

福島 大輔(鹿児島県鹿児島市 NPO法人桜島ミュージアム 代表)

桜島をまるごと博物館と考え、桜島についての資料の収集保存、調査研究、教育普及に関する事業を行うエコミュージアム構想の成果を観光、教育、地域振興、福祉、防災等に生かし、地域の人々、児童・生徒を含む子どもたち、観光客など、多くの人々に対する生涯学習、環境学習、地域づくり活動に寄与することを目的としている。エコミュージアムとエコツーリズムを融合させることで、ハード整備に多大な資金を使うことなく、地域をまるごと博物館とする事業が展開できるよう試行錯誤の活動を蓄積しているところである。

2 馬を中心とした自然体験の通年的提供の総合的プログラム ーポニーのいるひと育ち広場ー

14:10~14:40

石井 博史(鳥取県鳥取市 社団法人ハーモニカレッジ 理事長)

平成7年から鳥取と関西の家族を対象として自然体験の拠点としてポニーのいる牧場を開設。メインプログラムは「通年的ポニークラブ」と「合宿型ポニーキャンプ」と乳幼児と親を中心とする「おひさま広場」。草の根的に発足した団体で、ボランティア30名、正会員330名の会員によって支えられた社団法人として運営している。「ケガと弁当は自分持ち」が基本方針。「人生大学」として青年ボランティアを育成し、組織化し、共に活動の輪を広げている。

ティータイム

14:40~15:05

3 学社連携「幸中朝学」 ー新しい地域教育力を創造する学校・PTA・公民館・大学ー

15:05~15:35

山本 健志(福岡県飯塚市立幸袋中学校 教頭)

学校発の学社連携事業である。連携の環は学校・PTA・公民館・大学の四者で構成している。目標は中学生の学力向上と基本的生活習慣の形成である。講師は地元位置する国立大学の学生陣。会場の提供には公民館が参加し、活動の見守りはPTAが責任を持つ。学校は「朝学」事務局を設置して関係機関の連絡調整を行なう。参加している生徒も、その保護者も、指導に当たっている大学生も、学校も、陰の力の公民館も「朝学」評価は絶大である。

4 郷土芸能「浮立(ふりゅう)」の保存・振興策の実践と世代間交流の創造 ー自治会活性化モデル事業によるまちづくり実験ー

15:40~16:10

森 正芳(長崎県時津町 浜田郷浮立保存会 会長代行)

浜田郷の「浮立」は150年の歴史を有し、近年は記念行事のみの祭事と化していたものを自治会活性化モデル事業として地区内行事として再編成した。目的は地域の活性化と親睦・融和である。モデル事業の指定により保存会と自治会の一体的取り組みが可能になり、練習施設や予算の確保も可能になった。最大の成果は住民相互のコミュニケーションが緊密になりつつあることである。